

目の不自由な人のこと(視覚障がい)を知ろう

「見ること」についての障がいです。
 視覚に障がいのある人の中には、何も見えない(全盲)人と見えにくい(弱視)人がいます。
 弱視の人の見え方も、細かい部分が分からない、光がまぶしい、暗いところで見えにくい、見える範囲が狭いなど様々です。

見え方の一例



ぼやけている



中心が見えない



中心しか見えない



左しか見えない

こんなことに困っています…



● 白い杖(白杖)をついている人は、杖で前の様子や安全を確認して歩いています。
 点字ブロックの上、自転車などの物が置かれていと困ります。



● 慣れていない場所を一人で歩いたり、電車やバスなどの公共交通機関で移動することが難しいです。
 また、事故などの急な環境の変化は音声で説明されないと分かりません。

わたしたちができることは？

◆ 困っていたら、前から「何かお手伝いが必要ですか」と声をかけてください。

もし気付かないようでしたら、肩や腕に軽く触れて、もう一度声をかけてください。
 また、声をかけるときは名前を名乗って声をかけましょう。

◆ 物の位置などを説明するときは、「あれ」、「その」、「こっち」など、あいまいな言葉では分かりません。

「右」、「左」、「前」、「後ろ」、「3歩くらい」、「100メートルくらい」、「北」のように具体的に伝えましょう。



◆ 駅のホームや階段では、危険だと感じたら声をかけ、安全な位置まで誘導しましょう。

◆ 白杖を頭上50センチメートル程度に掲げてSOSシグナルを示している視覚障がいのある人を見かけたら、進んで声をかけ、困っていることなどを聞き、サポートしてください。

◆ 音声案内のない信号では、「信号が青になりましたよ」などと声をかけましょう。

